

令和7年度

小松島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①生徒の思考を深め、表現力を育て、アウトプットを意識した授業の実践
- ②学校と家庭との連携による基本的生活習慣(特に学習習慣)の確立

校長

西山 伸二

学力向上推進員

井上 香織(1年), 長尾 友香(2年)
谷口 拓真(3年), 森本 茂資

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の書き取りや計算練習など、基本的な学習課題に対して真面目に取り組む。 ●問題文の読み取りが苦手で、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分な生徒が多い。	①毎時間の授業(学習)に意欲的に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につける。 ②身についた知識・技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	①授業において本時の学習目標を提示し、本時の振り返りを徹底する。 ②教材、発問、板書、小テスト、評価の工夫 ③日々の朝学習の取組に注力する。 ④ICT機器やAIドリル、学力向上確認プリント等を積極的に活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的推進を図る。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見を発表したり、他人の意見をよく聴いたりする姿勢が育ちつつある。 ●解決したい課題に応じて、必要な情報や資料等を収集し、自分の考えをまとめたり、表現したりすることに消極的な生徒が多い。	①自分の考えをまとめ、根拠を明らかにして、適切に表現することができる。 ②図書やインターネット等で必要な情報を収集し、目的に応じてまとめ、活用することができる。	①スピーチや説明・報告など、対話的で深い学びの場を積極的に設定する。 ②学級文庫・新聞等を活用し、読書習慣を身につけさせる。 ③タブレット端末やICT機器を効果的に活用させる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業準備や3分前入室1分前着席を心がけ、学習課題に対して真面目に取り組むようになってきた。 ●将来を見据えて計画的に課題を見つけ、取り組もうとすることに消極的な生徒も多い。	①進路に目標をもち、学校でも家庭でも、各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ②将来を見通し、自らの課題を見つけ、計画的に実践することができる。	①授業における主体的な学びを図るとともに、家庭での学習習慣を定着させる。AIドリルを使って、自分に合った問題を選択し取り組めるようにしていく。 ②生徒専門委員会において、キャリア教育を念頭に、生徒自身が学校生活をよりよくするための活動を支援する。			